

1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	誕生寺支援学校	指導者名	黒田 大輔
実践場面 (教科名)	課題別学習 (自立活動)	単元・題材名	靴ひもの蝶々結び
学習目標・ ねらい	・自分で、履いている靴の靴ひもで蝶々結びができる。 (5 身体の動き (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること)		
対象児童生徒の 実態	知的障害部門 中学部3年		
	・一人ではひもを結ぶことができない。 ・教師の手本を手掛かりにすることで簡単な活動に取り組むことができる。 ・タブレット端末を操作することに関心があり、簡単な操作はできる。 ・シールを貼ることを好み、それを励みに苦手な活動や初めての活動に取り組むことができる。		
活用の概要			
○タブレット端末を使用し、写真アプリに保存されている蝶々結びの動画を参考にしながら蝶々結びに取り組む。 ・100円ショップの「手先トレーニングくつひも」を使用した蝶々結びの動画を生徒のタブレット端末に保存しておく。 ・結び方を繰り返し確認したい時や、一気になる部分があった時は、動画を一時停止してコマを送ったり戻したりすることで自分のペースで課題に取り組むことができるようにする。 ・蝶々結びが手本通りに1回できるごとに、シールを貼る。			
  			
○同じ動画を手掛かりにして、自分の靴のひもで蝶々結びができる。 ・教師が生徒の目の前で生徒の靴で蝶々結びをして見せ、同じ結び方であることに気付くことができるようにする。 ・蝶々結びに取り組む中でよく分からない部分は、コマ送り（戻し）の機能を使いながら自分のペースで練習ができるようにする。 ・靴のひもでの蝶々結びに慣れてきたら、実際に靴を履いた状態で蝶々結びに取り組む。			
			
成果や活用の ポイント ・ 課題、改善点 等	【成果】 ・約1か月半の期間、週3～4日程度の実践を行った。日によって、宿題として取り組むこともあった。 ・一時停止や再生の機能を使いながら繰り返し取り組んだことで、靴を履いた状態でも正確に蝶々結びができるようになった。 【活用のポイント】 ・見本の動画を撮影するときは、動作をゆっくりしておく、一時停止や微調整を行いやすい。 【今後の取り組み】 ・将来のことを考え、簡単な調理や洗濯の仕方なども動画を用いながら練習し、一人でもできることを増やしていきたい。		